



東山に上る八坂の塔の前は、本来なら内外の観光客でいっぱい。戻るのはいつか。



永観堂のそばに暮らす知り合いのお茶人の昨年の茶会で拝見した桜満開のお茶碗。

コロナ禍が始まり3回目の春を迎えた。仕事の都合で例年以上に京都に通い、新幹線にも多く乗ったこの1年。ガラガラから満席まで状況は様々だったが、ホテルの朝食ビュフエがなくなり、酒類提供禁止の時期は、ホテルの部屋で夕食をとった。ハンマー&ダンスと称するコロナ対策の中、東京オリパラは1年遅れ、ゼロコロナを目指す中国では冬季五輪が開催された。

た連のアフガン侵攻から40余年。ソ連解体のきっかけとなったチェルノブイリ原発事故から30余年。クリミア併合から8年。内戦状態のウクライナにプーチンの軍隊が攻め込んだ。第二次大戦後も、途切れることなく戦争は起きてきたが、今回はテレビのワイドショーからコロナ禍が吹っ飛んだ。ロシアへの厳しい経済制裁は、世界のエネルギー危機が懸念され、日本でも対岸の火ではなくなっている。だが得をするのは石油も兵器も売れて、ロシアを弱体化できるアメリカではないかとの噂もある。とはいえ中間

選挙苦戦が予想されるバイデン民主党に何ができるのか。核をちらつかせてNATOを牽制するプーチンをどうしたら抑え込めるのか……。BBCとCNN、そしてウクライナ関連YouTubeに釘付けの今日この頃だ。さて、古都キウ（キエフ）と姉妹都市である京都は避難民受け入れを表明している。難民認定がG7の中でも極端に低い日本だが、今回はミャンマー人への対応とはちがう。実は難民とは人種、宗教、国籍、政治的意見などを理由に迫害される恐れのある人で、ウクライナの避難民は難民ではないという。ウクライナ避難民は、日本政府が行う1日5千人の入国規制の枠外でそうで、是非これを機に悪評だらけの入管法や入管施設の改善が進んで欲しい。京都の街から海外旅行者が消えて丸2年が経ち、オーバートーリズムが大問題だった祇園花見小路の情景も今は昔となった。戦争もコロナ禍も1日も早く終わり、桜咲く京都、そして日本に、世界中から多くの人が訪れることをただただ願う。



暮らす旅 京都 桜咲く季節のなかで

四条鴨川の桜。北に進んだ賀茂川沿いの半木の道も桜の名所。

文・写真／松岡伸吾（暮らす旅舎）



京都の西側にある仁和寺の御室桜は樹高が低いので、目の高さで大ぶりの花が楽しめる。

ソメイヨシノに比べると十日ほど遅く咲く御室桜。鞍馬や大原も遅く4月半ばでも見頃だ。

